

2015年2月4日

三菱地所株式会社
代表取締役社長 杉山博孝 殿

一般社団法人 日本建築学会関東支部
支部長 長谷見 雄二

みずほ銀行前本店ビルおよび銀行会館・東京銀行協会ビルの
保存活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴社におかれましては、東京都千代田区丸の内1丁目所在の「みずほ銀行前本店ビル」、「銀行会館」、「東京銀行協会ビル」を一体的に建て替える「(仮称)丸の内1-3計画」を実施すること、新聞記事で拝見いたしました。

よくご存知のように、みずほ銀行前本店は、文化勲章受章者で日本近代を代表する建築家・村野藤吾の設計によって1973(昭和48)年に旧日本興業銀行本店として建設された建物で、濃褐色の花崗岩で外壁を一様に覆った地下5階、地上15階建ての個性的な外観が特徴的なオフィスビルであり、また隣接して建つ銀行会館・東京銀行協会ビルは、三菱地所設計の設計により1993(平成5)年に建設された高層オフィスビルで、低層部の一部に既存建物である旧東京銀行集会所(1916(大正5)年、横河工務所(担当:松井貴太郎))を部分的に取り込んだ、都心部における近代建築の保存活用の初期の事例として有名な作品です。

それぞれの建築の有する価値は別紙「見解」に記した通り、1970~1980年代の丸の内・大手町地区の都市再開発において主要なテーマであった高層化(高さ制限の撤廃)や「歴史的建造物の保存」といった課題に対し、場所性や設計者の独創性、景観を重視したオフィスビルのあり方を提示した初期の代表的な建物として高い歴史的価値を持つものであります。これらの建物は、明治期(三菱一号館)や大正期(東京駅)、昭和初期(日本工業倶楽部会館、明治生命館)の建物に続く、1970~80年代の丸の内・大手町地区を象徴する建物と位置づけ、この地区の歴史を後世に伝える存在として、その価値を継承していくことが重要と考えられます。

貴下におかれましては、この貴重な建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値について改めてご理解いただき、当該建物の保存活用を図るための方途を積極的にご検討の上、推進されますよう、お願い申し上げます。

なお、日本建築学会関東支部といたしましては、この建物の保存活用に関して、学術的観点からのご相談をお受けいたします。

敬具